小型重力波観測衛星 DECIGOパスファインダー

Original Picture : Sora

安東 正樹 (東京大学)

DECIGO/DPF collaboration

Earth Image: ESA

DECIGOパスファインダー



DECIGOパスファインダー (DPF) 将来の宇宙重力波望遠鏡のための前哨衛星

宇宙・地球の観測
→ 銀河の成り立ち, 地球環境モニタ
先端科学技術の確立
→ 宇宙・無重力環境利用の新しい可能性

イプシロン搭載小型ミッションとしての実現を目指す. 小型衛星1機(重量 400kg) 地球周回軌道(高度 500km) 非接触保持された試験マスの変動を レーザー干渉計を用いて精密計測

Earth Image: ESA





DECIGO



DECIGO (DECI-hertz interferometer Gravitational wave Observatory)

宇宙重力波望遠鏡 (~2027) → 他では得られない豊富なサイエンス

宇宙の成り立ちに関する知見 インフレーションの直接観測 ダークエネルギーの性質 ダークマターの探査 銀河形成に関する知見 ブラックホール連星の観測 宇宙の基本法則に関する知見



最大4ユニットで相関をとる

SE室相談会 (2013年12月24日, 宇宙科学研究所)

-ザー干渉計によって精密測距

重力波望遠鏡の感度とターゲット



地上干渉計: 10Hz - 1kHz → 中性子星など
DECIGO : 0.1 - 1Hz → 中間質量BHなど, 初期宇宙からの重力波
LISA : 1mHz - 10mHz → 大質量BHなど







中間質量BH 連星の合体 中性子星 連星の合体 宇宙背景重力波

宇宙の成り立ちと進化 銀河・超巨大BHの形成



宇宙の誕生と進化





DECIGOのロードマップ



Figure: S.Kawamura





DECIGOパスファインダーの目的

DPFの目指す科学的成果



宇宙・地球の観測



重力波観測 銀河中心付近の中間 質量ブラックホールの 合体現象を観測. ● 銀河形成への知見

地球重力場観測



1mm程度のジオイド高 分解能での地球重力 場観測. <u>い</u>地球環境モニタ



先端科学技術の確立









宇宙環境利用の新しい可能性

DPF成功基準



A DALLER OF

		最低限の成功基準	所期の成功基準	所期の成果を超える成功基準
	DPF全体	各サブシステムの基本動作を確 認する.	各サブシステムの期待性能での 動作と、重力波・地球重力場観 測.	性能の最適化と長期安定観測。
よる成果	重力波観測	重力波観測データの取得.	地球周回時間(100分程度)を超え る期間,所期の感度(歪み感度 2x10 ^{{-15})での重力波観測データ の取得.重力波振幅の上限値と 雑音源の評価.	6ヶ月以上に渡る観測と重力波信 号の探査.背景重力波の上限値 と空間分布を求める.
観測に。	地球重力場観測	衛星変動の長周期成分から地球 重力場を観測する。	試験マス-衛星変動信号と軌道情 報から1mm程度のジオイド高分解 能で地球重力場を観測し, 観測精 度を評価する.	全球に相当する重力場を重複観 測し、データの再現性や重力場の 時間変動を評価。
	安定化レーザー光源	レーザー光源と安定化システムの 動作と安定度を評価する.	レーザー光源を目標レベル (0.5Hz/Hz [^] [1/2])まで安定化する.	地上で達成されていないレベルの 安定度を達成する.
科学技術の確立	宇宙干渉計	ファブリ・ペロー干渉計を安定に制御し,基線長変動を測定する. ローンチ・ロック機構を動作させ, 試験マスを衛星内に非接触保持 する.	地球周回時間(100分程度)を超え る間の干渉計の連続安定動作を 実現.データを重力波振幅に換算 するための校正測定.レーザーセ ンサを動作させ,10 ^{-11} m/s ² の高感度で試験マス-衛星間の加 速度変動測定を行う.	雑音源の評価と制御系の最適化 を行い,原理的に可能なレベルま で干渉計雑音を低減する.
	ドラッグフリー	低雑音スラスタの動作確認と雑音 レベル評価.	試験マスと衛星の相対変動信号 をミッションスラスタにフィードバッ クし,ドラッグフリー制御を実現.	ドラッグフリー制御によって, 衛星 変動を太陽輻射圧雑音レベルより 小さいレベル(10 ⁻ [-9] m/Hz ⁻ [1/2]) にまで抑圧する.

SE室相談会 (2013年12月24日, 宇宙科学研究所)

y a false and a second second second and a second second second second second second second second second second





DECIGOパスファインダー (DPF)

- DECIGOの最初の前哨衛星
- DECIGOで必要とされる主要技術のうち、 1機の衛星で可能な要素の宇宙実証.

400kg級 衛星一機 500km 地球周回軌道

- 基線長30cm干渉計による干渉計技術実証.
- 安定化レーザー光源の動作.
- ドラッグフリーの実現.
- 連続的な観測運用.





DECIGOのための根幹技術実証







重力波により宇宙を見る 銀河系内のBH連星合体 → 巨大BH形成への知見. DPF**の感度では** ~30個の球状星団を観測可能

独自・野心的なサイエンス

重力で地球を見る 地球重力場の観測 **Coefficient Error** → 地球形状・地球環境モニタ 他の海外ミッションに匹敵する感度 国際観測網への貢献, 独自の観測 (2012-2016に国際観測網にギャップ) 確実なサイエンス・国際貢献



NGC7078

SE室相談会 (2013年12月24日, 宇宙科学研究所)

DPFの観測目標

ブラックホール 合体現象からの重力波
DPFの観測周波数 (0.1-1Hz)
中間質量ブラックホール
(質量 10³ - 4x10⁵ M_{sun}) が対象
最大100kpcの距離まで観測可能

我々の銀河系内の

➡ 銀河中心BH, 球状星団中のBH の形成メカニズムに対する知見

他の手段では観測が困難 → これまでにない観測結果となる







球状星団のブラックホール



中心付近の星の速度分布の観測

Core velocity dispersions for 25 Galactic and 10 old Magellanic globular clusters? Pierre Dubath et al., Astron. Astrophys. 324, 505–522 (1997)

Obs No.	NGC No.	$\frac{V_r}{(\mathrm{kms}^{-1})}$	$\sigma_{\rm CCF}$ (km s ⁻¹)	D (%)	S/N	ϵ (km s ⁻¹)	σ_{ref} (km s ⁻¹)	$\sigma_p^{obs}(\text{core})$ (km s ⁻¹)	stat err (km s ⁻¹)	$\sigma_p(\text{core})$ (km s ⁻¹)
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)
1	104	$-19.4{\pm}1.6$	$11.8 {\pm} 0.2$	0.110	13.0	0.12	7.2±0.15	$9.3^{+0.4}_{-0.4}$	+4.8:	10.0 +4.8 :
2		$-19.9{\pm}1.6$	11.5 ± 0.2	0.107	13.0	0.12	$6.8 {\pm} 0.10$	$9.3^{+0.3}_{-0.3}$		
3	362	$223.3 {\pm} 1.6$	$8.9{\pm}0.1$	0.171	14.0	0.07	$6.8 {\pm} 0.10$	$5.7^{+0.3}_{-0.3}$	+3.0: -1.6	6.2 + 3.0 = 1.6
4	1851	$320.3 {\pm} 0.8$	$13.8 {\pm} 0.2$	0.071	59.8	0.04	9.0 ± 0.20	$10.5 \substack{+0.4 \\ -0.5}$	$^{+2.5}_{-1.7}$	$11.3^{+2.5}_{-1.8}$
5	1904	200.6 ± 0.9	$9.7 {\pm} 0.3$	0.050	15.4	0.19	9.0 ± 0.20	$3.6^{+1.1}_{-1.6}$	+1.9: -1.0	$3.9^{+2.2}_{-1.9}$
6	5272	$-146.3{\pm}1.6$	$8.1 {\pm} 0.3$	0.112	5.0	0.30	$6.8 {\pm} 0.10$	$4.4^{+0.7}_{-0.8}$	+2.3: -1.2	$4.8^{+2.4}_{-1.4}$
7	5286	57.2 ± 1.7	10.8 ± 0.7	0.050	5.0	0.67	7.2 ± 0.15	$8.0^{+1.0}_{-1.1}$	+4.2: -2.2	8.6 +4.3 :
8	5694	$-142.7{\pm}1.7$	$8.8 {\pm} 0.5$	0.053	6.4	0.49	6.8 ± 0.10	$5.6^{+0.9}_{-1.0}$	$^{+1.3}_{-1.3}$	$6.1^{+1.3}_{-1.3}$
9	5824	$-26.0{\pm}1.6$	12.6 ± 0.3	0.037	16.0	0.28	6.8 ± 0.10	$10.6^{+0.4}_{-0.4}$	$^{+1.6}_{-1.6}$	$11.1^{+1.6}_{-1.6}$
10	5904	54.7 ± 1.6	$9.1 {\pm} 0.3$	0.084	6.0	0.33	6.8 ± 0.10	$6.0^{+0.6}_{-0.7}$	+3.1: -1.7	6.5 + 3.2 = -1.8
11	5946	129.1 ± 1.9	8.1 ± 1.1	0.101	1.5	1.10	7.2 ± 0.15	$3.7^{+2.2}_{-2.7}$	+1.9: -1.0	$4.0^{+2.9}_{-2.9}$
12	6093	7.8 ± 1.7	15.0 ± 0.5	0.037	10.0	0.45	$6.8 {\pm} 0.10$	$13.4 \substack{+0.6 \\ -0.6}$	+7.0: -3.8	$14.5 \substack{+7.0 \\ -3.8}$
13	6256	-104.6 ± 3.1	$9.5 {\pm} 2.6$	0.081	0.8	2.57	$6.8 {\pm} 0.10$	$6.6^{+3.4}_{-6.0}$	+3.4: -1.8	
14	6266	-71.8 ± 1.6	16.0 ± 0.3	0.067	10.0	0.25	7.2 ± 0.15	$14.3^{+0.4}_{-0.4}$	+7.4: -4.0	$15.4^{+7.4}_{-4.0}$
15	6284	27.5 ± 1.7	$9.3 {\pm} 0.4$	0.134	3.0	0.42	$6.8 {\pm} 0.10$	$6.3^{+0.7}_{-0.8}$	+3.3: -1.8	6.8 + 3.4 = 2.0
16	6293	$-147.9{\pm}1.8$	10.5 ± 0.8	0.037	5.5	0.82	7.2 ± 0.15	$7.6^{+1.2}_{-1.4}$	+4.0: -2.1	8.2 + 4.2 = 2.5
17	6325	31.0 ± 1.8	9.0 ± 0.8	0.157	1.4	0.76	$6.8 {\pm} 0.10$	$5.9^{+1.2}_{-1.4}$	+3.1: -1.7	$6.4^{+3.3}_{-2.2}$
18	6342	118.0 ± 1.6	$8.3 {\pm} 0.3$	0.172	3.2	0.30	$6.8{\pm}0.10$	$4.8^{+0.7}_{-0.7}$	+2.5: -1.3	5.2 + 2.6 = 1.5
19	6397	15.1 ± 1.6	7.5 ± 0.3	0.045	13.0	0.28	7.2 ± 0.15	$2.1^{+1.3}_{-2.1}$	+1.1: -0.6	
20	н	$15.0 {\pm} 1.6$	$7.4{\pm}0.4$	0.050	10.0	0.33	7.2 ± 0.15	$1.7^{+1.5}_{-1.7}$		
21	6441	14.6 ± 1.6	19.3 ± 0.2	0.098	12.0	0.14	$6.8{\pm}0.10$	$18.1^{+0.2}_{-0.2}$	+9.4: -5.1	$19.5^{+9.4}_{-5.1}$
22	6522	$-10.3 {\pm} 1.6$	$9.6 {\pm} 0.3$	0.133	4.3	0.29	$6.8{\pm}0.10$	$6.8^{+0.5}_{-0.6}$	+3.5: -1.9	$7.3^{+3.5}_{-2.0}$
23	6558	$-198.8{\pm}1.6$	$7.5{\pm}0.2$	0.168	5.6	0.18	$6.8{\pm}0.10$	$3.2^{+0.6}_{-0.8}$	+1.7: -0.9	$3.5^{+1.8}_{-1.2}$
24	6681	$223.4{\pm}1.6$	11.5 ± 0.3	0.092	7.4	0.24	$6.8 {\pm} 0.10$	$9.3^{+0.4}_{-0.4}$	+4.8: -2.6	$10.0 \substack{+4.8 \\ -2.6}$
25	6752	$-32.0{\pm}1.6$	8.5 ± 0.2	0.082	21.0	0.10	7.2 ± 0.15	$4.5 \substack{+0.5 \\ -0.6}$	$^{+2.3}_{-1.3}$:	$4.9^{+2.4}_{-1.4}$
26	7078	$-111.3 {\pm} 1.6$	$15.6 {\pm} 0.2$	0.015	54.0	0.21	$6.8 {\pm} 0.10$	$14.0 {}^{+0.3}_{-0.3}$	$^{+5.0}_{-3.0}$	$15.1 \substack{+5.0 \\ -3.0}$
27	7099	-180.7 ± 1.8	8.2 ± 0.8	0.022	11.0	0.83	$6.8 {\pm} 0.10$	$4.6^{+1.5}_{-2.0}$	+2.8: -1.5	$5.8^{+2.9}_{-1.7}$
28		-181.1 ± 1.8	8.6 ± 0.9	0.020	11.0	0.91	$6.8 {\pm} 0.10$	$5.3^{+1.5}_{-1.9}$		
29	н	$-183.6 {\pm} 2.2$	$8.9 {\pm} 1.5$	0.017	8.0	1.47	$6.8 {\pm} 0.10$	$5.7^{+2.2}_{-3.0}$		
30		-185.1 ± 1.7	8.9 ± 0.5	0.031	14.4	0.45	$6.8 {\pm} 0.10$	$5.7^{+0.8}_{-0.9}$		
31		-182.9 ± 2.7	8.2 ± 2.2	0.017	5.4	2.18	6.8 ± 0.10	$4.6 + 3.3 \\ -3.6$		

中心付近の星の速度分布 と BH**質量の関係**

GEMINI AND HUBBLE SPACE TELESCOPE EVIDENCE FOR AN INTERMEDIATE-MASS BLACK HOLE IN ⁽¹⁾ CENTAURI Eva Noyola et al., ApJ 676 (2008) 1008Y1015



Fig. 9.— $M_{\bullet} - \sigma_{vel}$ relation for elliptical galaxies and bulges. The solid line is the relation in Tremaine et al. (2002). ω Cen lies on the low-mass extrapolation and suggests a similarity between it and the galaxies. Different types of systems such as star clusters and low-luminosity AGNs appear to populate the low-mass end of the diagram.



球状星団中のBH

中心付近の星の運動から BH質量を推定

BH同士の合体からの重力波で期待できるSNR 等質量, 質量比1:1/3, 100Msun BHが落下の場合

	NGC#	BH質量 [Msun]	距離 [kpc]	SNR (同質量)	SNR (1:1/3)	SNR +100Msun	速度分散 [km/sec]
Clobular clusters known	6441	12,424	11.2	36.4	22.2	3.7	19.5
to have black belos	6256	4,754	6.9	26.6	16.2	4.3	15.4
to have black holes	7078	4,388	10.3	16.6	10.2	2.8	15.1
	6093	3,720	10.0	14.9	9.1	2.7	14.5
M15	104	820	4.5	9.4	5.7	3.6	10
	1851	1,348	12.1	5.3	3.2	1.6	· 11.3
	6681	820	9.0	4.7	2.9	1.8	10
	6293	366	8.8	2.5	1.5	1.4	8.2
Our Cun	5286	444	11.0	2.3	1.4	1.2	8.6
Our Sun	6522	228	7.8	1.9	1.1	1.3	7.3
Milley Way Calaxy	5904	142	7.5	1.3	0.8	1.1	6.5
Milky way Galaxy	6325	133	8.0	1.2	0.7	1.0	6.4
(artist's concept)	6752	45	4.0	0.9	0.6	1.3	4.9
	7099	89	8.0	0.8	0.5	0.9	5.8
Credit: NASA, STScI	6284	171	15.3	0.7	0.5	0.6	6.8
	5272	41	10.4	0.3	0.2	0.5	4.8
		(我々の銀河	内に約	150の球状	星団)		

DPFによる重力波の観測





球状星団中のBH (我々の銀河内に約150の球状星団)

中心付近の星の運動 から BH質量を推定(23個) 〇 重力波を検出可能(5個)

~30個の球状星団が観測範囲内



衛星による地球重力場観測





グローバルな重力ポテンシャルの決定 → 地球形状の基準 (ジオイド) 時間変動のモニター → 地球ダイナミクスの総体 地球規模の水の監視 地震・火山噴火にともなう 地殻変動の検知・予測

衛星重力ミッション



3種類の観測手法,衛星ミッション

高軌道-低軌道衛星追跡 (SST High-Low)

・GPSなどの測位システムで 衛星軌道を連続測定 ・搭載加速度計データを 用いて擾乱摂動を差し引く



・2機の衛星間の距離変動
から、重力場を観測
・搭載加速度計データを
用いて擾乱摂動を差し引く

GRACE (NASA, 2002-)

衛星による重力勾配観測 (Satellite GG)

・衛星搭載の重力勾配計
により、重力場を観測
・衛星擾乱を抑えるため、
ドラッグフリー制御を行う

GOCE (ESA, 2009-)



CHAMP (GFZ, 2000-)

GOCELDPF



同じ観測方式: 衛星による重力勾配観測 (Satellite GG)



(ESA, 2009-)

DPF (JAXA, 2019-)



高度 29	<mark>5km</mark> , 3軸の重力勾配	
感度	5x10 ⁻¹² m/s ² /Hz ^{1/2}	
基線長	0.5m	
重量	1,200 kg	

高度500km, 1軸の重力勾配計感度9x10⁻¹⁵ m/s²/Hz^{1/2}基線長0.3m重量400 kg

地球重力モデル

-66m -44m -22m 0m 22m 44m 666 88m



Geoid eigen-cg01c - Ellipsoid 1 = 2 - 360 grid = 2.0° 10000 light = (11°, 23°)

地球重力ポテンシャルを 球面調和関数展開で表現

 $U(r,\lambda,\phi)$

 $= \frac{GM}{r} \sum_{l=0}^{\infty} \sum_{m=0}^{n} \left(\frac{R}{r}\right)^{l} P_{lm}(\sin \phi)$ $\times \left[C_{lm} \cos(m\lambda) + S_{lm} \sin(m\lambda)\right]$ $G, M, R : \mathbf{\bar{z}}\mathbf{\bar{z}}\mathbf{\bar{z}}\mathbf{\bar{z}}, \mathbf{t}\mathbf{t}\mathbf{t}\mathbf{f}\mathbf{f}\mathbf{f}\mathbf{f}, \mathbf{t}\mathbf{t}\mathbf{t}\mathbf{f}\mathbf{f}\mathbf{f}\mathbf{f}\mathbf{f}$

 P_{lm} : Legendre 陪関数

係数 C_{lm}, S_{lm}:
地球内部の質量分布に依存する
衛星による測定などの観測から求める

International Centre for Global Earth Models (ICGEM) http://icgem.gfzpotsdam.de/ICGEM/ICGEM.html

•0 wolfk@gfz-potsdam.de

低次係数 (大スケール) で良い感度 ← 高いセンサ感度 高次係数 (小スケール) で悪化 ← 高い軌道高度

Report for Mission Selection Gravity Field and Steady-State Ocean Circulation Mission ESA SP-1233(1) July 1999.





DPFの観測精度





CHAMP, GRACE, GOCEが稼働中

·地球形状

2190**次までの係数データ** (GRACE**など**, 2008)

🖒 高精度・高分解能な地球形状基準

·時間変動

アマゾン流域, ヒマラヤなどの
陸水季節変動の観測データ
地震による地殻変形の観測
(スマトラ沖地震 2004年)



☆ 2012年頃には運用寿命を迎える見込み

GRACE-FOが採択 (NASA) GRACEをベース, レーザー測距を追加 2016年打ち上げ見込み

DPFによる国際観測網の補完 国際共同観測

SE室相談会 (2013年12月24日, 宇宙科学研究所)

地球重力場観測の現状

DECFGO

・NASA/GSFC GRACEチームとの共同研究

- GRACE用に開発されたシミュレーションツールを改良
 - → DPFの構成で時系列シミュレーション.
- DPFの感度(+安全係数)で陸水変動の情報が得られることを確認.

地球重力場の観測

・今後

- パラメータサーベイと要求値の確定.
- GRACEとの同時観測によるエリアシング除去の研究.



地球重力場・重力波の観測



地球重力場の計算

EGM2008 (2190次)の係数データ DPF**軌道高度** 500km, 極軌道 地球重力場観測と 重力波観測の両立





DECIGOパスファインダーの概念設計



・重力波・地球重力場の観測 → 歪み感度要求値 2 x 10⁻¹⁵ Hz^{-1/2} (0.1 Hz)

ミッション要求値



重力勾配計:試験マス間の距離変動を精密計測
- 干渉計による測距感度 6 × 10⁻¹⁶ m/Hz^{1/2} (0.1 Hz)
- 試験マスに働く外力雑音 1 × 10⁻¹⁴ N/Hz^{1/2} (0.1 Hz)

DPFシステム要求値











ドラッグフリー ローカルセンサで相対変動検出 → スラスタにフィードバック



DPFシステム概要



DPF Payload

Size : 950mm cube Weight : 220kg Power : 150W Data Rate: 800kbps Mission thruster x10

Power Supply SpW Comm.

Satellite Bus ('Standard bus' system) Size : 950x950x1100mm

Weight :230kgSAP :960WBattery:50AHDownlink :2MpbsDR:1GByte1N Thrusters x 4



DPF主要緒元 (1/2)



全	本構成	
	質量・	寸法
	軌道	
	姿勢	

450kg, 950 x 950 x 2000 mm 高度500 km 太陽同期極軌道 (全日照軌道) 太陽同期, 地球指向姿勢

ミッション部

質量·寸法 220kg, 950 x 950 x 900 mm (フィン構造除く) 消費電力 150 W レーザー干渉計 基線長30cm, 2-3kg試験マス x2, **変位感度** 6x10⁻¹⁶ m/Hz^{1/2} レーザー光源 干渉計入力 25 mW, 波長 1060 nm ヨウ素飽和吸収線による安定化 周波数安定度 0.5 Hz/Hz^{1/2} 100 μN x 2**台**, 10 μN x 8**台** スラスタ **推力雑音** 0.1 μN/Hz^{1/2} **全自由度の制御,変動安定度** 10⁻⁹ m/Hz^{1/2} ドラッグフリー 800 kbps, 観測データ量 圧縮後 600 MByte/day データレート

DPF主要緒元 (2/2)



バス部

質量·寸法	230kg, 950 x 950 x 1100 mm
データ処理・通信	SpW 準拠信号処理システム
	記録容量 2 GByte, ダウンリンクレート 2 Mbps
電源	SAP 片翼 2枚, 発生電力 820W (22度傾斜)
	バッテリー 50Ah, ミッション供給 150W
姿勢	3軸制御(初期軌道捕捉,ファイルセーフ時)
	スラスタ 4本搭載

※ 標準バス構成からの差分・要検討事項
低擾乱化 (RW非搭載, ジャイロはFOGに変更)
SAP取り付けの変更 (受動姿勢安定のため)
GPS受信機搭載 (地球重力場観測のため)
主放熱面の変更 (+Y面)
重量バランス, SAP等の共振振動 (ドラッグフリー制御系設計)
姿勢情報等の伝達 (ドラッグフリー制御の実装)



衛星システム検討

DPFシステム概念検討(これまで)



検討ベースラインの整理
・ミッション要求とシステム仕様

・衛星システム諸元の整理

- ・課題の検討 (SANT, CSAS, G
- ・衛星システムブロック図
- 質量配分
- 電力配分、電力解析
- ・衛星コンフギュレーション

∮課題

- ●熱検討
- 受動安定姿勢検討
- ・システム検討





DPF线器模成	略号	台数	貸量[kg](1台あたり) パーナル	승규로프 [ki]	源泉
aV			22710		
ッション機器				223.17	
		1	31.57	36.57	タドワーキンググループ開催
T###E93-A		1	90.00	30.00	9月77ーキンググルーン漫画
	l	1	5.00	1.00	
10750-9788-201-A		I I	\$,00	9.00	のキリーキングダルーン開始
		1	5.00	6.00	3PT7-42972-782
		1.	15.00	15.00	2011-1-4-2-9-9-1
		H	5.00	5.00	の時で-キンググレーブ発音
ドラップフリー・スラスクロロ		1 i l	5,00	8,00	コリアーキンググループ発電
スラスタヘッド・1000モジュール(大工、小4)		15	10.05	33.91	2011/02/25 第ホミムナール情報
Ry142-17-0/第三(土)		z	327	6.54	シスワーキンググループ発生
3/201/107-0224(土))			4,48	6.00	タドワーキンググループ機能
/13/3/22/1-		별	48.22	44.22	ロドワーキンググループ電量
		12	10.00	10.00	311-7-45976-786
22月2日町 つら425合計(マージン洗み)				223.17	
VA74					
「星マネジメント系	SMS			13,13	
システムマネジルントユニット	510	1	2.00	2.00	ロド電台書ペース
テレメトリコマンドイン・オフェースモジュール		ĩ	2.00	2.00	A280ARD 論入進告書(1282.28)
24-20148-2	SHEE, SHEE		1.71	147	ABNARD RELEASE (ASHR HED
7-9-3-9	DR .	11	210	2.10	
	MIGA CORR	11	9/2	0.44	Appearant 2012/11/12
	OPIC .	1÷	1.20	1.20	AMARONAL SOLE /11//15
(E.S.	RE		1.00	8.21	
ヨインギアンテナビエに方向	9-AIT1.9-AIT2	2	9.18	0.56	ASSIARD ICO(201 (1052.7)
タインギアンテナ(一乙次月)	S-ANT3	1	0.18	91.0	ASKARD ICD(251 1092.7)
おしボダイル・クサ	9-0IP1,3-0IP2	2	0.42	0.84	ASKARO ICO(100_1002.7)
B/C#7.197	5-58	1	0.10	010	ASSAND 1CD(201_11052.7)
いつぞいつりから	8-IM0	1	8.05	0.06	ABBARD 100(466_110027)
9C-P-7.4.5.4	9-TRP-A9-TRP-B	2	334	6.00	ACCARD SEPARATION (CONT-
25.	EPS			67.10	
A BRANKA	GAPLEAPE	2	15.00	81.30	の中華教会ペース
「おう「「「「「「」」」	SADAH SADAR	0	LH	0.00	DPF#5#4-X
電力制設置	PCU		6.00	6.00	ロイを含ます。ス
76-647 64-16-3	APR	1	4.00	4.00	DPF Engel - X
SMP ブロッキングダイオード (オーテリアルカー)	SBD/,9802	2	<u>1.40</u>	0.40	
V 1977 (J CANE)	BAT		21.10	01.01	
· 方机运制财产 加速管理和利用用	AOGS		200	400	NEEDING-3
17055244-075271	HIRAL PROPERTY AND	-	and the second second	000	
職気トルカ	MTG-XMTO-Y,MTG-Z		and the second s	0.00	創業
福田センサ	हा	1	3,20	3,20	ロド電台書も、ス
包托送中装在	FDG	3	0.15	0.65	コロワーキンググループ構造
海太陽センサ	CSA51,CSA52	2	9.01	0.02	ASKANON
122402424	SP9H1.SP9H2		0.13	0.00	
	BAS .			0.00	
	ACCESSION NO.			0.00	-412-
ACCULATE ACT AND ACTION	ACATS.	1	14	1.44	needleded
4003-C-572-5-572-65000013	AGION	11	100	0.00	
ADG8-(2-472	AGANA	1	2.18	2.18	DPF####4X
ADC3/(25/3=-X-E9=-A-RUM/PC	ACENI	1	2.00	7.80	ロドを含める人
1000 Cubring (TTV) - 6 1000/04	4000				ASSARD学体就的他具(TPK-
ALCH STATE AND A DESCRIPTION		L ' I			CONTRACTOR AND A DESCRIPTION OF A DESCRI
進系	RCS			31.56	
	-		*****		
		' "			
注意者モジュール			1		
11.7552-2	l		1		
10000-02 1000					
1777 m			1		
化+- 7 3			1		
WIX5X5E51-A		4	1		
法計算	E-INT			26.00	
10-4A20-48247777	TOP		28.09	20.00	
	HOE	1	450	4,50	012664-2
	T-MT	13	10.00	10.03	DTELEA-X
体系	STR	_		59,69	
総体	STR	12	50.11	50.11	DY#86#4-3
and the second se	M-AT	12	151	458	DNEW AL-3
1スシステム合計 1歳				241.20	
61				487.77	
	2 2 5 3-1	督長	副公		
	CI 2. U. U I	奥县			

DPFシステム概念検討(これまで)

• 熱設計検討

- 熱的要求条件
- 設計方針
- 排熱検討

・SpW信号処理系システム検討

・バス部からミッション部への通信方法

・受動安定姿勢の検討

- 日照時安定姿勢の改善
- ・ミッションスラスタの構成・配置検討





体験パネル	維展化社	動化時数数	2 10 PE	茶塾(安学知測工伝送)	18-15-
信取ハイル	使行合作	则作时計名	温度	光殼(足系観測工伝区)	11.17 11.17
+X 独立题制		20 ~	30	-	
	BAI-H	20 ~	30	_	
-x	SWR2	-25 ~	50	10.3	SPRINT-A CDREET
	PCU	-30 ~	60	17.2	SPRINT-A CDREET
	ACSDN	-30 ~	50	3.5	SPRINT-A CDREET
	ACIRM	-30 ~	50	9.5	SPRINT-A CDREET
	AGANA	-30 ~	50	10.5	SPRINT-A CDREET
	HCE	-20 ~	50	9.6	SPRINT-A CDREET
	-X/\不ル合	81 		60.6	
+γ	APR	-25 ~	65	68	SPRINT-A CDR20
	ACSTS	-30 ~	50	1	SPRINT-A CDR22
	SWR1	-25 ~	50	10.3	SPRINT-A CDR22
	SBD	-30 ~	60	11	SPRINT-A CDRE
	SADM	-30 ~	60	1.5	SPRINT-A CDRED
	+Yバネル合	81		97.8	
-Y	S-TRP-A	-20 ~	55	10	SPRINT-A CDR
	S-TRP-B	-20 ~	55	27.6	SPRINT-A CDR
	AOCP-B	-25 ~	50	1	SPRINT-A CDR
	AOCP-A	-25 ~	50	13	SPRINT-A CDR
	SMU	-25 ~	50	19	SPRINT-A CDR
	TCIM	-30 ~	50	14	SPRINT-A CDR
	DR	-25 ~	55	6.5	SPRINT-A CDR設
	SADM	-30 ~	60	1.5	SPRINT-A CDR設
	SBD	-30 ~	60	11	SPRINT-A CDR
	<u>-Yパネル合</u>	計		103.6	
+Z	FOG	-10 ~	50	6.9	IKAROS搭載品
	S-SW	-20 ~	50	0.2	SPRINT-A CDR
	S-DIP1	-20 ~	55	0.1	SPRINT-A CDR
	S-DIP2	-20 ~	55	0.1	SPRINT-A CDR
	GAS	-30 ~	60	1.0	SPRINT-A CDR
	S-HYB	-20 ~	55	1.6	SPRINT-A CDR
ミッション側か	らの熱入力			20	仮定
	+Zパネル合	計		29.9	
-Z	RCS用ヒータ			5.2	ASNARO実績
	-Zパネル合	81		5.2	
+Z 独立熟制	卸STT	-30 ~	60	7.2	SPRINT-A CDR
	パス合計			304.3	

©NEC


DPFシステム検討 (今年度予定)

• これまでの検討の詳細化・精緻化

- ・ミッション全体の成立性検討
 - 重量配分
 - 熱設計
 - 電力配分
 - バス部とのI/F
 - 機体構造
 - 信号処理トポロジー

製造運用コスト・期間の検討

・成立性の最終確認検討を行い, ミッション提案書の形にまとめる

DPFミッション部ブロック図

ATTAINT THE PARTY



A DECEMBER OF A



姿勢・ドラッグフリー制御



姿勢・ドラッグフリー制御: 衛星構造検討,制御則,ミッションスラスタ









JAXA, 東海大, 防衛大

BBM and system design

ドラッグフリー制御



・干渉計制御 + ドラッグフリー制御系の雑音評価 - 制御帯域 10Hz →静電S/A雑音, スラスタ雑音が、 干渉計感度に影響を与えない構成.



構造検討・受動姿勢安定



·衛星構造·姿勢検討

- ドラッグフリー制御のバックアップ



進行方向

・初期姿勢捕捉・セーフホールド

- バス部に RCS 搭載
 - コールドガスジェットスラスタ (窒素, 1N)
- 計10回の姿勢捕捉, 日陰時姿勢保持 → 推薬量 3.3 kg
 残留レート < 0.01 deg/s
 - SE室相談会 (2013年12月24日, 宇宙科学研究所)

信号処理・制御システム



信号処理・制御システム:SpWベースの信号処理システム





DECT

SpaceCube2: Space-qualified Computer

SWIM $\mu\nu$: User Module

CPU: HR5000 (64bit, 33MHz) System Memory: 2MB Flash Memory 4MB Burst SRAM 4MB Asynch. SRAM Data Recorder: 1GB SDRAM 1GB Flash Memory SpW: 3ch

Size: 71 x 221 x 171 Weight: 1.9 kg Power: 7W





Processor test board GW+Acc. sensor FPGA board DAC 16bit x 8 ch ADC 16bit x 4 ch → 32 ch by MPX Torsion Antenna x2 ~47g test mass

Data Rate : 380kbps Size: 124 x 224 x 174 Weight: 3.5 kg Power: ~7W

SDS-1 SDS-1

Power +28V RS422 for CMD/TLM GPS signal

Power ±15V, +5V SpW x2 for CMD/TLM

SWIMによる宇宙実証

SWIMμν



Photo: JAXA

超小型宇宙重力波検出器 ☆世界で最初の宇宙重力波検出器

TAM: Torsion Antenna Module with free-falling test mass (Size : 80mm cube, Weight : ~500g) Test mass

~47g Aluminum, Surface polished Small magnets for position control





Photo sensor

Reflective-type optical displacement sensor Separation to mass ~1mm Sensitivity ~ 10⁻⁹ m/Hz^{1/2} 6 PSs to monitor mass motion





SWIM による観測運転



長時間データ取得

Jun 17, 2010 ~120 min. July 15, 2010 ~240 min.

◇ 宇宙背景重力波に対する上限値





SWIMで実証された回路構成を基に設計・製作
FPGA, ADC, DAC, バッファアンプを一体化.

- チャンネル数を 16ch に増加.

☆ 搭載機器開発BBM/EMに組み込む. 干渉計EM, 試験マスモジュールBBM, 安定化レーザー

SpWデジタルボードBBM

デジタル制御ボード

FPGA x2 (SpW FPGA, User FPGA) SDRAM 32MByte SpW Port x2, RS232C 16ch 16bit ADC/DAC Digital I/O 各10ch バッファアンプ搭載.







ミッション部を構成する各機器のインターフェース部を開発した。(16bit AD/DA、SpW 2ch) SDS-1/SWIMµv**のものをベースにしている**。

今後、ミッション部各機器の噛み合わせ試験時に使用

また、ドラッグフリー飛行系の構築のための、ミッション部の信号トポロジーの変更と バス部との噛み合わせを設計していく必要あり。

ミッション部の信号系統



・別資料参照 DPFシステムコスト見積もり・概念検討 検討結果報告書. 別紙資料.

ミッション提案書 (2008年).

DPF質量検討



衛星質量 450kg (WET) (ミッション部バランスウェイト 46kgを含む)

			単体質量	合計質量
DPF 機器構成	略号	台款	(/対ル) [kg]	(787JP) [kg]
ミッション				
ミッション系(1階部)				46.00
干渉許モジュール		1	30.00	30.00
干渉計制御モジュール		1	5.00	5.00
ハウジング制御モジュール		1	5.00	5.00
レーザーセンサー制御モジュール		1	5.DO	5.00
ミッション系(2階級)				70.00
安定化レーザー光源モジュール		1	15.00	15.00
電源・熱制御モジュール		1	5.00	5.00
信号処理モジュール		1	5.00	5.00
ドラッグフリー・スラスタ制御モジュール		1	5.00	5.00
スラスタヘッド・制御モジュール(大2,小b)	1	1 ਤੀ	40.00	40.00
ミッション装体系				108.20
ミッション構体	M-STR	1 式	36.57	36.57
ミッション部態計装	M-TINT	11	5.00	5.00
ミッション部電気計会	M-EINT	111	5.00	5.00
ミッション部隊械計装	M-NUNT	1 ವೆ	0.00	0.00
ミッション部フィン	M-FIN±X	2	3.27	6.54
ミッション部フィン	M-FIN±Y	2	4.43	8.87
パランスウェイ ト		1=1	46.22	46.22
			40.22	40.22
パスシステム				
管理マネジチント系	381			3.63
システムマネジメントコニット	SMU	1	2.00	2.00
テレメトリコマンドインタフェースモジュー	- rITCIM	1	2.14	2.14
スペースワイヤルータ	SWR1_SWR2	2	1 72	3 44
データレコーダ	DB	1	2.05	2.05
381	DC		2.30	R. 14
(いた) ドマ いテナ (モ)(ち 向)	C-66IT1 C-66IT2	2	0.19	0.35
(いた) ビアンアア(エル) 回/	C-6NIT3	1	0.18	0.33
いい ドイノブリス ちからり		2	0.41	0.82
	<u>C_CW</u>	1	0.10	0.10
いたい おいえ ブリッド	C-HYR	1	0.05	0.05
いい ドレランスポンダ	S-TRP-4 S-TRP-R	2	3.35	6 70

			_		
ľ		EP8			45.6D
	太陽電池バドル	5AP1, SAP2 (8' 🐙)	1式	31, 10	31.10
		(比応,部)		ŕ	_
F		CTDND		î	_
F	パドル取動モータ	SADM1_SADW2	0	0.00	0.00
F	营力划御寒	PCU	1	5.00	5.00
F	マレオパローレギャレータ	100	1	1.00	4.00
H	リンコンシーンモンシージ (40 ブロット いかかりみード	NPA (BRA	0	4. W	4.00
H	30 フロタモンクタイオート	3801, 3802	2	0.40	0.80
┢	バッテリ (30xh)	DAI (DAI_L)	1	23.79	23.10
H		(BAT-U)	1	1	-
	表情 机道射模系	ACCS			16.60
	- 受勢軌道制御計算機	XOCP-A, XOCP-B	- 1	2.DO	4.00
	リアクションホイールアセンブリ	RWA1, RWA2, RWA3, RWA4	6	0.00	0.00
Γ	磁気トルカ	MTO-X, MTO-Y, MTO-2	¢.	0.80	0.00
	恒星センサ	\$TT	1	3.28	3.28
F	*****	FOB (RB)	1	0.15	0.45
F	<u>毎天陽センサ</u>	CSAS1 CSAS2	1	0.04	0.04
H	<u>またきましょう</u> またまたまたまた	IDCH1 CDCH0	6	¥. 67	¥.vo
H		87311,37312 AAC	4	A 84	0.00
H	心臓丸モンフ ACCEALATE フェクティー AURCENTER	anta Compo	V 0	0.00	0.00
1	NWS1ンダフェースモンユールMIOQZARM	AUMUZ	Q	0.00	0.00
H	AOCSインタフェースモジュールRV級Honeywell	ACRWH	0	0.00	0.00
L	ACOSインタフェースモジュールSTT@SODERN	XOSTS	1	1.46	1.46
L	ACCSインタフェースモジュールSADMENTS	XCSDN	Ó	0.00	0.00
	A00SインタフェースモジュールAnalog®NTS	ACANA.	1	2.13	2.13
Γ	A00Sインタフェースモジュール IRUMPC	AGIRJ	1	2.60	2.60
F	A00Sインタフェースモジュール\/DRU/1A	1000 I	1	2.50	2.50
h		RCS			14.20
۲	推進系	RCS	1.57	14.9	14.20
F	注意: 注意: 1. 注: 1. 注意: 1. 注意: 1. 注: 1. [1]: 1.	RED AED		17.6	
ŀ	注意サモジュール	HED, GED LAW, D.T. DOG			
H		LAV. FLT. PKE			
H	推築リンク	INK		ſ	r
\mathbb{H}	紀告	PIPE		r -	<u>f</u>
H	記旨ブラケット	-		ſ	Î
	インタフェースコネクタブラケット	-		1 Î	1 1
L	4Nスラスタモジュール	4N TRN	4	1	1
					15,00
٢	推装		1	15,00	15.00
Ī	王生 計論	E-INT			28.00
ľ	ハーネスおよび中継ョネクタブラケット	WHN .	1 🕈	26.06	26.00
		TCS	1 24	20.01	14 50
ľ		unc	1	1.50	4.50
H	レース利仰張軍	7. U.T.	1.0	4.30	4.30
H		1-101	120,	10.00	10.00
ŀ	第	4 I K			48. ED
H	一個作	5 IR	1式	60.11	60.11
L	機械計装(パランスウェイト含まず)	n-int	1 ± \$	1.58	9.58
L	陸被許法(パランスウェイト)		1式	0.00	0.00
;	ッション部合計		1	223 20	223, 20
ł			1	015 01	415 91
1			-	218.01	219.01
1			1	15.00	16.0D
٢,	ス部合計(WET)		1	230.31	230.31
	合 町 (DRY)		1	438.51	4\$8.51
	合計 (#ET)		1	45.3. 51	452, 51

Design and the second second

DPF電力検討



観測+地上伝送時 415W (ミッション部予備・ヒータ電力 50W)

DPF衛星 (2012.03.23)		略号	台数	消費電力[W]	モード別消費 電力[W]					
					観	周	観測+伝	進(地上)	備考	
				定常	日照	目陰	日照	創日		
ŝ	2									
2	シンヨン授客					199.0				
	干渉計モジュール		1	3.0	3.0	0	3.0)	2012/01/20付け 防風先キメール情報	
	干渉計制御モジュール		1	4.0	4.(0	4.()	2012/01/20付け 佐藤先生メール情報	
	ハウジング制御モジュール		1	10.0	10.	0	10.	0	2012/01/20付け 佐藤先生メール情報	
	レーザセンサ制御モジュール		1	8.0	8.0	0	8.0)	2012/01/20付け 防縄条キメール情景	
	安定化レーザ光源モジュール		1	25.0	25	0	25.	0	2012/01/20付け 佐福先生メール情報	
	電気・防制 御モジュール		1	10.0	10.	0	10.	0	2012/01/20(まけ 弥風楽 キメール情景	
	信号処理モジュール		1	12.0	12	0	12	0	2012/01/20付け 佐福先生メール情報	
	ドラッグフリー・スラスタ製得モジュール		1	5.0	5.0	0	5.0)	2012/01/20付け 夜観先 生メール情報	
	スラスダ電力		1	20.0	20	0	20	0	2012/01/20ほけ 夜田をキメール情報	
	(予册)		1	53.0	53	0	50	0	シップペンク計がいかいとなるように調整	
六	スシステム							·		
1	町星マネージメント奈	SMS								
	システムマネジメントユニット	SMU	1	12.8	12	8	12	8	SPRINT-Aペース	
	データレコーダ	DR	1	13.9	13.	9	13.	9	SPRINT-AM-X	
	テレメトリ・コマンド・インタフェースモジュール	TCIM	1	14.0	14.	0	14.	0	SPRINT-Aペース	
	スペースワイヤルータ	SMR	1	3.1	31	1	31	1	SPRINT-Aペース	
F	电信系	RF								
L	さパンドトランスポンダ	S-TRP	1	13.0(待摄)/30.4	13.	.0	30.	4	SPRINT-Aペース	
1	源系	EPS								
	電力制御器	PCU	1	10.0	10.	0	10.	0	SPRINT-Aペース	
	プレイパワーレギュレータ	APR	1	1.5(日朝時のみ)	1.0	0.0	1.5	0.0	SPRINT-Aペース	
1	受 <u>努机追制调杀</u> (2.4.3.5.5.6.6.6.	AUCS								
	会劳劳莱L型于事状:	AOCP	1	12.8	12	8	12	8	SPRINT-Aペース	
	9 795554-(ルアセンブリ	RMA.	4						揚星〉(大では4台で900W(一定回転時)	
		erre-	÷						構建 パスでは3台 平内で6m	
	但显世2-サ	शा	1	7.2	7.3	2	7.2	2	SPRINT-Aペース	
	領性基準装置	181							*BCAROS搭載品(JAE 駅) - 規連〉(大では2005程度(MPC数 TDG)	
	****	AGRIMH	6						18 MB > Č X TELI I MANY	
	ACCERCUPTE-JUNTO	ACHER	~							
	1015-1-1-1-1-1-015	ACVIDI	- Ť						ALL DICILION LA	
			1	11.0	11.	.0	11.	0	ASNARO - Z (STBY E - F)	
	R0C34 5971-X491-Just	AUSTS	1	2.0	- 20	0	Z.()	SPRINT-Aペース	
	AOCSインタフェースモジュールAnalog	ACA NA	1	10.0	10.	0	10.	0	SPRINT-Aペース	
	A003インタフェースモジュールRU	ACI RJ		20.0		<u> </u>	20		SPRENT-Aペースで9.5MEがPOGへの二次電源供加 時間がPortificationのと思う	
	教利御茶	TGS		2000	400		400	~	SERENDIN CELEVILLE	
	ヒーク制御装置	HCE	1	10.5	10.	3	10.	5	SPRINT-Aペース	
						<u>^</u>		<u>^</u>	システム防爆折れ実施のため詳細量は不明。	
	2-9		185	30.0		.0		0	不良的では重要した。	
※要点消算力会計(ジルナルト 335.2 wi 372.8 wi 372.8 wi 371.2 wi 373.2 wi 372.8 wi										
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				211.1	2020-0	2000	2712-	1	
			355.4 W	353.9 W	3728 W	371.3 W				
豊荷への重力伝送日大				10.2 W	2.9 W	10.9 W	3.2 W			
	APR更換中式(日期費荷分)				30.9 W	0.0 W	32.4 W	W 0.0		
				日帰/日隣負荷	398.5 W	356.8 W	416.1 W	374.5 W		





・衛星システム

- ドラッグフリーシステム検討.

信号処理: バス部とミッション部の情報伝達部の検討.

衛星構造: 衛星構造と制御則の検討.

- ミッション寿命・運用期間, リソース配分

地球重力場観測には、1年以上の運用期間が重要.

·搭載機器

- 干渉計・試験マスモジュール.

外乱抑圧 (残留気体雑音,磁場雑音,熱輻射雑音). - 安定化レーザー光源.

- 安定度評価,環境試験(振動、温度変動、放射線). - スラスタ
 - 推力雑音評価,リソース配分.





・コスト評価:リスク・成果との兼ね合いの再検討.

・人員体制:宇宙ミッションに対する経験の豊富な人材. JAXA内での位置づけ.

・試験計画

- 衛星のドラッグフリーシステムの地上試験計画.
- 干渉計・試験マスモジュールの無重力実証試験.

·運用計画

- 運用期間 (搭載寿命, スラスタ推薬, 運用経費). - 打ち上げ時期 (他の衛星重力ミッション, 太陽活動).



搭載機器開発

DPF主要緒元 (1/2)



全体構成	
質量・寸法	450kg, 95
軌道	高度500
姿勢	太陽同期

450kg, 950 x 950 x 2000 mm 高度500 km <mark>太陽同期極軌道 (全日照軌道</mark>) 太陽同期, 地球指向姿勢

E	リション部		
	質量·寸法	220kg, 950 x 950 x 900 mm (フィン構造除く)	
	消費電力	150 W	
	レーザー干渉計	基線長30cm, 2-3kg試験マス x2,	
		変位感度 6x10 ⁻¹⁶ m/Hz ^{1/2}	
	レーザー光源	干渉計入力 25 mW, 波長 1060 nm	
		ヨウ素飽和吸収線による安定化	
		周波数安定度 0.5 Hz/Hz ^{1/2}	
	スラスタ	100 μN x 2 台 , 10 μN x 8 台	
		推力雑音 0.1 μN/Hz^{1/2}	
	ドラッグフリー	全自由度の制御,変動安定度 10 ⁻⁹ m/Hz ^{1/2}	
	データレート	800 kbps, 観測データ量 圧縮後 600 MByte/day	

DPF主要緒元 (2/2)



バス部

質量·寸法	230kg, 950 x 950 x 1100 mm
データ処理・通信	SpW 準拠信号処理システム
	記録容量 2 GByte, ダウンリンクレート 2 Mbps
電源	SAP 片翼 2枚, 発生電力 820W (22度傾斜)
	バッテリー 50Ah, ミッション供給 150W
姿勢	3軸制御(初期軌道捕捉,ファイルセーフ時)
	スラスタ 4本搭載

※ 標準バス構成からの差分・要検討事項
 低擾乱化 (RW非搭載, ジャイロはFOGに変更)
 SAP取り付けの変更 (受動姿勢安定のため)
 GPS受信機搭載 (地球重力場観測のため)
 主放熱面の変更 (+Y面)
 重量バランス, SAP等の共振振動 (ドラッグフリー制御系設計)
 姿勢情報等の伝達 (ドラッグフリー制御の実装)

DPF搭載の干渉計

各コンポーネントのBBM試験進行中 (試験マスモジュール, モノリシック光学系, 信号処理). > 干渉計モジュールとしてパッケージ化. 構造設計と製作進行中.

干渉計モジュール

DECTGO





干涉計BBM 制御実験 (~2011, 東京大学)

- 試験マスをワイヤーで懸架, アクチュエータは簡略化.

干涉計BBM実験

- 入出射用のモノリシック光学系BBM.
- QPD BBM + デジタルボードBBM による制御.







干渉計基線長,角度変動の安定制御を実証



干涉計BBM実験

DECT



干渉計モジュール



干涉計

モジュール

レーザー干渉計:試験マス + 干渉計 + センサ

試験マスモジュール 重力・重力波を観測するための基準 •BBM of Module, Sensor, Actuator, Clump/Release •µ-Grav. Exp. 法政大,国立天文台, お茶大, スタンフォード大

干渉計モジュール → 重力波観測, 重力勾配計 •30cm IFO BBM Packaging Digital control







レーザーセンサ → 加速度計センサ

•BBM test

Sensitivity meas.







宙科学研究所)

試験マスモジュールBBM実験



- ・試験マスモジュール2自由度制御実験(~2012,国立天文台)
 - 試験マスをねじれ振り子で懸架
 - 静電センサ・アクチュエータを用い, 回転・位置を制御







・試験マスモジュール2自由度制御実験

- 試験マスの並進・回転の
 2自由度制御を実現.
 - 0.1Hzでの残留変動
 並進 3x10⁻⁵ m/Hz^{1/2},
 回転 10⁻⁴ rad/Hz^{1/2}.







制御結果(回転)

・試験マスモジュール2自由度制御実験 (~2012, NAOJ)

制御結果(並進)







・無重力下での試験マス制御デモンストレーション (NAOJ)
- 落下モジュール (構造, 電源, センサ,ロガーなど)
- ~3m落下設備 (足場, 切り離し機構, クッションなど)



安定化レーザー光源



安定化レーザー光源:光源 + 安定化システム

Yb:YAG (NPRO or Fiber laser) 光源 →小型・軽量化, 耐振動性

Prototype on a breadboard - No shields vet

•BBM development

電通大, NASA/GSFC

電通大, NICT

ヨウ素飽和吸収
 による安定化制御
 → 周波数基準
 擾乱耐性
 ・BBM development
 ・Stability meas.



Pump



安定化 レーザー光源

DECTGO

- ・周波数安定化モジュールBBM1 (~2011, 電通大)
 - ヨウ素セルを用いた周波数安定化.
 - 安定度要求 (0.5 Hz/Hz^{1/2})を満たす.
- ・周波数安定化モジュールBBM2 (電通大)
 - ファイバ素子を用い,小型・軽量・堅牢化.
 - SpWデジタル制御ボードによる動作.





周波数安定化モジュール

ミッションスラスタ構成



 ・ミッションスラスタ構成
 ・ 準定常成分 100 μNスラスタ 2台 大気ドラッグ,太陽輻射圧
 - 変動成分 10 μNスラスタ 8台 大気圧変動,太陽輻射変動



ミッションスラスタ構成



・ミッションスラスタ検討・開発 (ISAS/JAXA) 既存技術を利用 → FEEPスラスタ



DPFスケジュール



+3years

2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 全体スケジュール LL # 25 to re dt **ズ**Z FM創設 小型重力波観測衛星(DPF) スケジュール ▲ システム確認書 システム要求確定 部品·調達機器 ロジェクト移行 ン部・長納期機業 バスモジュール 構体・熱・計装 構造·計装 仕様 確定 詳細語 TRU ミッション機器 概念設計 (Pre Phase-Phase-A コンポーネント性能評価試験 仕様 構造·計装 単体 総合 試験 試験 ヨッション部 基本構成機器のBBM製作・試験 基本構成コンポーネントの開発 全体スケジュー 基本設計·仕様調 確定 基本社様設計書 最終設計書 キッション提案書 ミッション定義審査 ミッションモジュール (構体・熱・計装) 熱・構造モデル試験 単体 総合 試験 試験 システム要求審査 噛み合わせ試験 ▲ 仕様の再検討 信号编理·制御 要求値·仕様検; FM使的现 基本設計·BBM試计 安定化レーザー 干燥新一 ドラッグフリー制作 日金設計・仕様検問 計・シミュレーション解析 除空热,甾休! スラスタ FM塑作, 単体計 日金設計・システム検索 1号橋打ち上げ 2号橋打ち上げ 概念設計 衛星FM BBM EΜ / pFM FΜ 総合試験 ミッション提案 コンポーネントFM完成 TRL 4**以上が必要** 仕様を満たす `基本技術要素が同時に動作し、 各種環境試験に合格 実証モデルとして性能を発揮し ていること









DECIGO**パスファインダー** (DPF) DECIGO**のための最初の前哨衛星**

小型衛星 1 機 (95cm立方x2, 400kg) 地球周回軌道 (高度 500km, 太陽同期軌道)

宇宙・地球の観測 → 銀河の成り立ち, 地球環境モニタ

先端科学技術の確立 → 無重力環境利用の新しい可能性

BBM**試作・試験が進行中** SDS-1/SWIM**による宇宙実証**

Earth Image: ESA




Earth Image: ESA

A DALDA BAGE AN AM





SE室相談会 (2013年12月24日, 宇宙科学研究所)

-126.000 EXC

DECIGO



DECIGO

(Deci-hertz interferometer Gravitational wave Observatory)

宇宙重力波望遠鏡 (~2027) 観測周波数帯 ~0.1 Hz レ LISA と 地上重力波望遠鏡 の間の周波数を狙う



Pre-Conceptual Design



Interferometer Unit: Differential FP interferometer

Arm length:1000 kmFinesse:10Mirror diameter:1 mMirror mass:100 kgLaser power:10 WLaser wavelength:532 nm

S/C: drag free 3 interferometers



Interferometer Design



Transponder type vs Direct-reflection type

Compare : Sensitivity curves and Expected Sciences

Decisive factor: Binary confusion noise



Arm length



Cavity arm length : Limited by diffraction loss



SE室相談会 (2013年12月24日, 宇宙科学研究所)

[m]

Arm Length

干渉計(FP共振器)の基線長制御 干渉計信号 → 鏡の位置(と光源周波数)制御 宇宙機と鏡の相対位置 ローカルセンサー信号 → スラスタ (ドラッグフリー制御)

干渉計と宇宙機の制御

DEC



DECÍGO

干渉計による測距 変位雑音 3 x 10⁻¹⁸ m/Hz^{1/2} (0.1 Hz)
↓ LCGT より10倍緩やか.

他の雑音は散射雑音以下であることが要求される レーザー光源周波数雑音: 1 Hz/Hz^{1/2} (1Hz) 安定化ゲイン 10⁵, CMRR 10⁵

DECIGOの要求値

加速度雑音 カの雑音 4x10⁻¹⁷ N/Hz^{1/2} (0.1 Hz) LISAより50倍厳しい.

多くの外乱雑音源 磁場変動, 電場変動, 宇宙機重力場変動, 温度, 残留気体, など.





候補軌道: 太陽周回のレコード盤軌道 相対加速度 4x10⁻¹² m/s² (鏡への制御力 ~10⁻⁹ N)



4 つの干渉計ユニット

2 overlapped units → 相関解析
2 separated units → 重力波源の同定



Foreground Cleaning



DECIGO obs. band: free from WD binary foreground
 → Open for cosmological observation

DECIGO will watch ~ 10⁵ NS binaries \overrightarrow{r} Foreground for GWB In principle, possible to remove them. Require accurate waveform $\rightarrow \Delta m/m < \sim 10^{-7} \%$



Fig: N. Kanda

Design Update



By T.Akutsu

Considering "Conceptual design"

- •Arm length: 1,500 km
- Laser power: 30 W
- Laser wavelength: 532 nm
- •Mirror diameter: 1.5 m
- Mirror mass: 100 kg
- Mirror reflectivity: 77.3%
- Cavity g-param: 0.1

This is the first step to considering the conceptual design.

Next:

 ➡Confirm the calculations.
 ➡Find the realistic way to realize this!



14 GWADW2011 in Isola d'Elba (24 May 2011)



干涉計感度 変位雑音 6 x 10⁻¹⁶ m/Hz^{1/2} (0.1 Hz) ↓ x 200 of DECIGO in disp. noise

他の雑音

レーザー光源周波数雑音: 0.5 Hz/Hz^{1/2} (1Hz)

加速度雑音

力の雑音 1x10⁻¹⁵ m/s²/Hz^{1/2} (0.1 Hz) く x 250 of DECIGO

衛星変動

变位雑音 1x10⁻⁹ m/Hz^{1/2} (0.1 Hz)

外力雑音:

残留気体変動, 磁場勾配-変動, 熱輻射, 温度変動, 電場変動, 重力場変動, など.

宇宙干渉計による精密計測



背景

DPFで

目指す成果

地上干渉計では豊富な実績 (10⁻¹⁹ m/Hz^{1/2}の変動測定)

宇宙では、FP干渉計は実現されていない (LPFでは MZ干渉計を使用 10⁻¹² m/Hz^{1/2} 程度の変位感度)

意義・波及効果



宇宙干渉計による精密計測

宇宙空間におけるファブリ・ペロー 干渉計の動作と精密計測の実証. 衛星内に試験マスを非接触で低 雑音保持する技術の実証.



FP**干渉計による** 6x10⁻¹⁶ m/Hz^{1/2}の変位感度 試験マスへの外乱除去技術の確立 DECIGOの根幹技術 FP干渉計による 4x10⁻¹⁸ m/Hz^{1/2} の変位感度

安定化レーザー光源の実現



背景

広い応用範囲

- → 多くの地上研究(数 Hz/Hz^{1/2}の安定度)
 光周波数標準,原子・分子の精密分光,
 光通信,量子情報・コンピュータ
 重力波検出器での実績 (10⁻⁶ Hz/Hz^{1/2}の相対安定度)
 宇宙では,高安定レーザーの実績
- → 外部基準による高安定化はない

意義·波及効果

宇宙空間での

これまでに無い安定度の実現 さまざまな応用

地球環境観測 (ADM-Aeolus, GIFTS), 基礎物理実験, マイクロ波標準, 通信 (ACES), 惑星探査 (TPF-C), X線観測 (MAXIM), フォーメーションフライト (LISA, GRACE-follow-on)



安定化レーザー光源の実現

宇宙において高い周波数安定度 を持つレーザー光源の実現.ヨウ 素吸収線を用い、既存ミッション を超える安定度の実現を目指す.



0.5 Hz/Hz^{1/2}の周波数安定度 飽和吸収分光による安定化の宇宙実証

DECIGO**の根幹技術** 要求値を満たす安定度

ドラッグフリー制御の実現



背景

ナビゲーションシステムの開発

 → 1972年 TRAID-1 で初実証
 精密基礎物理実験
 → 2004年 Gravity Probe-B

 LPF (2010/11) L1点で実証
 国内: 高高度気球からの

 自由落下 (BOV) で実証

意義·波及効果

長時間安定な無重力環境
 →宇宙環境利用の新しい可能性
 基礎物理学実験,材料工学
 フォーメーションフライト
 のための基礎技術
 (TPF-C, LISA, GRACE follow-on)
 小型低雑音スラスタの宇宙実証

DPFで 目指す成果

ドラッグフリー制御の実現

重力傾度による受動安定化と能動 制御を併用した、全自由度ドラッグ フリー制御の実現.制御則と低雑 音スラスタの宇宙実証を目指す.



重力傾度安定との併用による低雑音制御 太陽輻射圧雑音以下への 衛星変動安定化 10⁻⁹ m/Hz^{1/2}

DECIGOの根幹技術 要求値と同程度の安定度

DPFコスト検討 (2008年時)



コスト:上限値の制約 → 信頼性確保とのトレードオフとして検討 構造系・電気系:メーカーの概算を参照 ミッション機器(光学系) 民生部品 ←→ 宇宙仕様部品 の間 (リスク) (コスト)

DPFミッション部 経費見積も	9	数量		費用[千円]		備考							
			1台	小計	<u>āl</u>	(0.05 (井田))							
ミッション部全体		1			995,000	(9.95 億円)		提案書見積もり	民生部品で構成	った場合			
干渉計モジュール		1			140,000			合計	1			合計	比率
重力波観測用干渉計		1	50,000	50,000			干渉計モジュール	140,000				31,200	4.5
ハウジング		2	30,000	60,000		•	重力波観測用干渉計	50,000	2 M25-250		11,000		4.5
レーザーセンサ		12	2,500	30,000					主干涉計	5,500			
主干渉計制御モジュール	IFO CTRL	1			15,000				光学系	2,000			
ハウジング制御モジュール	TM CTRL	1			15,000				変調器類	1,000			
レーザーセンサ制御モジュール	LS CTRL	1			15,000				光検出器類	2,500			
安定化レーザー光源モジュール		1			135,000		ハウジング	60,000			13,100		4.6
レーザー光源		1	70,000	70,000					試験マスモジュール	4,100			
周波数安定化光学系		1	50,000	50,000					構造体	1,100			
安定化·通信回路	Laser CTRL	1	15.000	15.000					センサ・アクチュエータ	900			
ドラッグフリー		1			95 000				モータ類	7,000			1027
スラスタヘッド		16	5 000	80,000			レーサーセンサ	30,000	NO TE	500	7,100		4.2
スラスタ制御モジュール	Thrust CTRI	1	15 000	15 000					九 源 エ 油 動	500			
信号処理モジュール	THE GOLD THE	1	10,000	10,000	110 000				十歩計	3,000			
由 中 加 理 計 質 機	SnC	i i	20.000	20,000					元子术	3,000			
コニバーサルSoWボード	USpWB	6	15,000	90,000			安定化レーザー光源	135,000				15,000	9.0
電源・執制御モジュール	PSIL Heater	1	10,000	00,000	20.000		レーザー光源	70,000		8,000	8,000		8.8
電源制御装置	1 00, Heater	1	10.000	10.000	20,000		周波数安定化光学系	50,000	and the state of the state of the state of the		5,100		9.8
电应用四次置		L 4	10,000	10,000					周波数変換光学糸	2,000			
			10,000	10,000	50,000	ドトのミッション・ダオケキ 505 倍田			大素セル	300			
				_	50,000	以上のミッション 即本 14日 5.95 18日			変調器類	1,500			
治戦候番武駛柱貨		-			50,000		ALC MET BUILDING T		光字部品	1,300			
総合試験栓貨		2-			70,000		光源制御糸	15,000		10000	1,900		7.9
射場作業・打ち上け		-		_	80,000				トライハ回路	800			
連用とデータ処理・解析		-			100,000		-		制御回路	1,100			
マージン					100,000	マージン比率 0.10					4	1位: 千円	
			B										

パワースペクトル



時系列信号をフーリエ変換して規格化

 $\frac{x^2(t)}{h} = \int_0^\infty \frac{G(f)df}{h}$ 平均変動パワー (RMS**変動**)²

(パワースペクトル)²

▶ パワースペクトル: 変動の平均パワーに対する 各周波数成分の寄与を表す

(例) 衛星の機械的変動要求値

1 x 10⁻⁹ m/Hz^{1/2}

🖒 1Hz (1**秒周期) の** 変動成分のRMS変動 1 x 10⁻⁹ m





観測帯域 (0.1-1 Hz) での 変動成分 (スペクトル) が重要

機械的振動 重力などによる 1 x 10⁻⁹ m/Hz^{1/2} 衛星変動 試験マス変動へのカップリング 磁場 1 x 10⁻⁷ T/Hz^{1/2} 磁場勾配途地場変動による 磁場変動 試験マス変動 3 x 10⁻⁶ T/m 磁場勾配 温度 熱輻射揺らぎによる試験マス変動 1 x 10⁻³ K/Hz^{1/2} 温度変動 (ハウジング内面での要求値)







frequency (Hz)





試験マス周囲の温度変動要求値 1 x 10⁻³ K/Hz^{1/2}

⇒ 多重の輻射シールド 大きな熱浴,熱伝導の良い材質

SWIM**モジュール**(SDS-1搭載) での温度変動実測結果

> サバイバルヒータでのON/OFF制御 SWIMでは温度制御はしていない

◇ DPFの要求値を ほぼ満たす結果 (ADC雑音による測定限界)





重力波天文学のロードマップ





KAGRA と DECIGO



KAGRA (~2017)
Ground-based Detector
→ 高周波数の重力波イベント
目標: 重力波の検出, 天文学

DECIGO (~2027) Space observatory → 低周波数の重力波 目標: 重力波天文学の展開



DPF WG members



青柳巧介,我妻一博,浅田秀樹,麻生洋一,新井宏二,新谷昌人, 安東正樹, 井岡邦仁, 池上健, 石川毅彦, 石崎秀晴, 石徹白晃治, 石原秀樹, 和泉究, 市來淨與, 伊東宏之, 伊藤洋介, 井上開輝, 上田暁俊, 植田憲一, 歌島昌由, 江尻悠美子, 榎基宏, 戎崎俊一, 江里口良治,大石奈緒子,大河正志,大橋正健,大原謙一,大渕 喜之, 岡田健志, 岡田則夫, 河島信樹, 川添史子, 河野功, 川村 静児,神田展行,木内建太,岸本直子,國中均,國森裕生,黒田 和明, 小泉宏之, 洪鋒雷, 郡和範, 穀山渉, 苔山圭以子, 古在由 秀, 小嶌康史, 固武慶, 小林史歩, 西條統之, 齊藤遼, 坂井真一 郎, 阪上雅昭, 阪田紫帆里, 佐合紀親, 佐々木節, 佐藤修一, 佐 藤孝,柴田大,真貝寿明,杉山直,鈴木理恵子,諏訪雄大,瀬戸 直樹,宗宮健太郎,祖谷元,高島健,高野忠,高橋走,高橋慶太 郎,高橋忠幸,高橋弘毅,高橋史宜,高橋龍一,高橋竜太郎,高 森昭光,田越秀行,田代寬之,田中貴浩,谷口敬介,樽家篤史, 千葉剛, 辻川信二, 常定芳基, 坪野公夫, 豊嶋守生, 鳥居泰男, 中尾憲一, 中澤知洋, 中須賀真一, 中野寬之, 長野重夫, 中村康 二, 中村卓史, 中山宜典, 西澤篤志, 西田恵里奈, 西山和孝, 丹 羽佳人, 沼田健司, 能見大河, 橋本樹明, 端山和大, 原田知広, 疋田渉, 姫本宣朗, 平林久, 平松尚志, 福嶋美津広, 藤田龍一, 藤本眞克, 二間瀬敏史, 船木一幸, 細川瑞彦, 堀澤秀之, 前田恵 一, 松原英雄, 宮川治, 宮本雲平, 三代木伸二, 向山信治, 武者 満, 森澤理之, 森本睦子, 森脇成典, 八木絢外, 山川宏, 山崎利 孝, 山元一広, 柳哲文, 横山順一, 吉田至順, 吉野泰造, 若林野, 花, 阿久津智忠, 松本伸之, 正田亜八香, 道村唯太, 田中伸幸, 黒柳幸子, 陳たん, 江口智士, 権藤里奈





メンバー構成



DECIGO-WG メンバー 145名

理論	57 名
実験	80名
シニア	8名

実験 80名の内訳 KAGRAでも主要タスクを担うメンバー 17名 (21%) KAGRAでも一部のタスクを持つメンバー 3名 (3%) DECIGO/DPFのみに参加 57名 (71%) 4名 (5%)





JGWC (Japan Gravitational-Wave Community)での合意: 「重力波グループとしてはKAGRAを最優先するが、DECIGO は次のプロジェクトとして重要」

- ・DECIGOとKAGRAとは独立.これは光赤外天文学と電波天 文学が組織も違い、将来計画も独立にやっているのに対応.
- ・背景重力波観測では、周波数帯が宇宙進化の各時期に対応.
 地上 100Hz, DECIGO 0.1Hz, LISA 1mHz,
 PTA 10nHz, CMB 10⁻¹⁵ Hz.
 → スペクトルを知ることで宇宙進化の情報が得られる.

推進体制





衛星スケールの検討

ALL BURNERS

y fillezine na Episania por pry fillezine na Episania por pri fillezine na Episania por pri filezine na Episo



CALLS TRACK THE TAXABLE

	中型衛星 (ASTRO-X)	小型科学衛星 (SPRINT-X)	技術実証衛星 (SDS-X)	大学衛星 (Cube sat.)
衛星 サイズ [m]	1 - 10	1 – 3	0.5 – 1	0.1-0.5
衛星重量 [kg]	~ 2000	~ 400	~ 100	~ 10
開発期間 [年]	~ 10	~ 6	~ 4	~ 3
コスト [億円]	~ 200	~ 70	~ 5	~ 0.1
期待できる 成果	(Pre-DECIGO) 重力波の検出 フォーメーション フライト	(DPF) 観測データ取得 根幹技術の 総合試験	(SWIM) 根幹技術の 個別試験 (×Drag-free)	動作試験 原理実証

SE室相談会 (2013年12月24日, 宇宙科学研究所)

consequences and a second processing of the constant and an approximately fille constant and a

SWIMによる実証とDPF



SDS-1搭載のSWIM (Space wire demonstration module)

DPF**衛星のプロトタイプとしての役割** SpC2 小型衛星標準バス (通信・信号処理, 電源制御) Snm DPF**ミッション部** (デジタル制御ボード, AD/DAコンバータ, センサモジュール)



SWIMµv



JAXA

超小型宇宙重力波検出器 2009年1月打ち上げ,2010年9月運用停止 ☆ 世界で最初の 宇宙重力波検出器

TAM: Torsion Antenna Module with free-falling test mass (Size : 80mm cube, Weight : ~500g)

Test mass

~47g Aluminum, Surface polished Small magnets for position control







Photo sensor

Reflective-type optical displacement sensor Separation to mass ~1mm Sensitivity $\sim 10^{-9} \text{ m/Hz}^{1/2}$ 6 PSs to monitor mass motion







SWIM In-orbit operation

Test mass controlled

Error signal → zero Damped oscillation (in pitch DoF) Free oscillation in x and y DoF Signal injection → OL trans. Fn.

Operation: May 12, 2009 Downlink: ~ a week



SE室相談会 (2013年12月24日, 宇宙科学研究所)

SWIM_{µv} 軌道上実証





月1回のペースで順調に運用中

伝達関数測定, DC gain測定 衛星3軸制御時のスペクトル測定

6月より観測を計画中



信号処理部



ミッション部を構成する各機器のインターフェース部を開発した。(16bit AD/DA、SpW 2ch) SDS-1/SWIMµv**のものをベースにしている**。

今後、ミッション部各機器の噛み合わせ試験時に使用

また、ドラッグフリー飛行系の構築のための、ミッション部の信号トポロジーの変更と バス部との噛み合わせを設計していく必要あり。

ミッション部の信号系統

干渉計モジュール



基線長30cmのファブリ・ペロー光共振器 DPFのメイン装置。重力波検出器の役割。



構成部品(機構部品、モノリシック光学系など)について、 ・環境試験(衝撃、振動等)を行っていく。 ・それを元に熱構塑設計(デンタ24下)が少する。

Föltevi-niconc 光学系部品だけでの動作テスト この状態でのFabry-Perot光共振器の動作は確認済み。



The cavity can be operated.

by Kasuga

試験マス素材の開発

Stringent requirements for the material

Magnetic susceptibility: < 10⁻⁶ (in SI unit)

Exploring the alloys

- Alloy of paramagnet / diamagnet
- Reasonable combination of elements
- Hopefully not "precious" metals



Al-Cu case

wt % °C 30 40 50 60 80 20 Example: $-4x10^{-1}$ 0.0E+00 1200 • 1100 108 Al-Sn case Typical Be-Cu's magnetic susceptibility is 1e-4~1e-5. $\frac{1}{3}$ 1048 -4.0E-05 1000 合番 主な成分 磁化率 w1% 900 °C 10 40 60 70 75 80 85 92 96 99 -8.0E-05 分子 -1.2E-04 长 Be-Cu(ALLOY17410) 700 2.0E-05 1 9.94×10^{-5} 800 -6602 Be-Cu(BRUSH60) 2.26×10^{-5} 600 700 igodoldow1.5E-05 ac 500 3 7wt%Al-93wt%Cu -7.04×10^{-6} 600 • 232 1.0E-05 撥 -4.34×10^{-6} 4 12wt%Al-88wt%Cu 400 500 97.5 (94.3)-1.6E-04 300 400 Э 17wt%AI-83wt%Cu 1.74×10^{-3} 5.0E-06 228.3 300 200 6 19wt%Al-81wt%Sn 1.10×10^{-5} 200L 0 Cu 100 0.0E+00 -2.0E-04 7 29wt%Al-71wt%Sn 1.33×10^{-5} 100 60 70 80 90 100 10 20 30 40) 50 at % 60 70 90 20 30 50 80 10 Al AI Sn 8 39wt%Al-61wt%Sn 1.55×10^{-5} 図 3 · 91 AI-Cu (解説:右段) 図3 · 114 AI-Sn 観濤目標値に来ているが、今後、より近づける

ורו של וע

Data, photo by Sato
ローンチロック機構

ロンチロック機構:打ち上げ時に試験マスを固定するためのもの。 基本設計および機構の製造(ピンプラー以外)までは完了。



研究所)

•SE室相談云 (2013年12月

これまで行った事(光源)-1

衛星搭載用周波数安定化光源の開発

飽和吸収信号 取得部

(1) **試作**1号機(ヨウ素安定化Yb:YAG レーザー)の作成

波長1030nmでは初の試み

周波数安定化と強度安定化を行い 間接評価ながら性能を確認 光源全景



これまで行った事(光源)-2

(2) 周波数安定化光源のBBMを作成

光源を固体レーザーからfiber laser に交換 全ファイバ系にして機械的安定性を向上 信号取得部の小型化、堅牢化を行う



信号取得部



FPGAを用いた自動制御 周波数安定化を行う 長期動作テスト

今後の予定(光源)

周波数安定度を厳密に評価するためには、同安定度の光源2台が必要

BBM**の2号機(改良版)を作成**

基本的な構成は1台目と同じで

改良点
 可動部等を減らし、機械的安定性のさらなる向上
 効率の向上と電気消費量の削減
 光源部の小型化

周波数安定度を評価し、パラメータを最適化することにより周波数安定度の向上

強度安定化システムの組み込み



•SE室相談会 (2013年12月24日, 宇宙科 学研究所)

FY25までの成果:DPFミッションスラスタ

ドラッグフリー用の小推力・可変推力スラスタシステムを設計



ミッションスラスタの主な仕様

Item	Spec	
Thrust	5-100 µN x 2 units	
	0.5-10µN x8 units	
Thrust resolution	0.1 µN	
Thrust noise	0.1µN/√Hz	
Isp	>1,000s	
Weight	<40 kg	
Power	<58 ₩ ●SE室相診	
Ope. Time	4,300hrs	



小型イオンスラスタ(≦100µN@) (光圧ならびに空気抵抗補償用)



•SE室相談会 (2013年12月2**超小型イオンスラスタ(**≦10μN@) 宙科学研究所) (FEEP,**その他の外乱補償用**)

FY25までの成果:DPFミッションスラスタ(続)

各イオンスラスタと小型中和器(オプション)の開発状況





DPF搭載と同一のNASA-MMS*搭載FEEP



超小型イオンスラスタFEEP(≦10µN)

- ・イオンエミッタとして国内外衛星で搭載実績あり (TRL=8~9)
- ・スラスタメーカーのAustrian Inst. Technol.と共同で、
 ・ DPF用の設計・インターフェース設計会実施
 ・ (2013年12月24年で、はオプション機器 宙科学研究所)



小型イオンスラスタ(≦100µN)

- ・ 東大のマイクロサット(HODOYOSHI4号)で2014年 に実証予定
- ・ DPF用のサイズダウンと推力ノイズ評価を実施



小型中和器(≦3mA)

JAXA研究開発本部でHTV/テザー実験で実証予定
 のカーボンナノチューブ電子エミッタ

FY26の計画:DPFミッションスラスタ 以下の3項目を実施予定

1. ミッションスラスタシステムの設 計まとめ

 2012年度末のミッション提案に向けてドラッグフ リーシステムに適合したスラスタシステムの設計を まとめる

	DSCU Drag-Free System Control Unit	
CMD/TLM		
	U.	FTCU FEEP Thruster Control Unit Control Board Power Supply FEEP Thruster Nodule 10uNx8
	MTCU	MCU Ion Thruster (MIPS) Control Unit
	Mission Thruster Control Unit	Control Board Power Supply I Ion Thruster Prop. Manag. Unit Module
		FECC F.E. Cathode Control Unit Control Board Power Supply F.E. Cathode F.E. Cathode F.E. Cathode Module
	Power	
	PCU	Power Control Unit
	2	いミュト・フニフムミ・フニノブロック网

ミッションスラスタシステムブロック図

- ミッションスラスタの低消費電力 化研究
- ・現状のスラスタ構成よりも更に低電力で動作可能な、 スリット型FEEPの研究を継続する。

2. ミッションスラスタの直接推力 評価

- 従来、イオンスラスタの推力ノイズは、イオンビー ム測定にて評価していた。
- 開発中のスラストスタンドの推力ノイズ測定感度
 を高めて、直接測定技術を獲得する。



推力と制御系、ならびに現状の推力ノイズ感度特性











•SE室相談会 (2013年12月24日, 宇 宙科学研究所)



•SE室相談会 (2013年12月24日, 宇 宙科学研究所)



•SE室相談会 (2013年12月24日, 宇 宙科学研究所)